

公益財団法人

九州先端科学技術研究所

Institute of Systems,
Information Technologies
and Nanotechnologies



ISIT



提供：福岡市 Photo:Fumio Hashimoto

地域に開かれた 研究所をめざして

ごあいさつ



理事長 貫 正義



研究所長 山田 淳

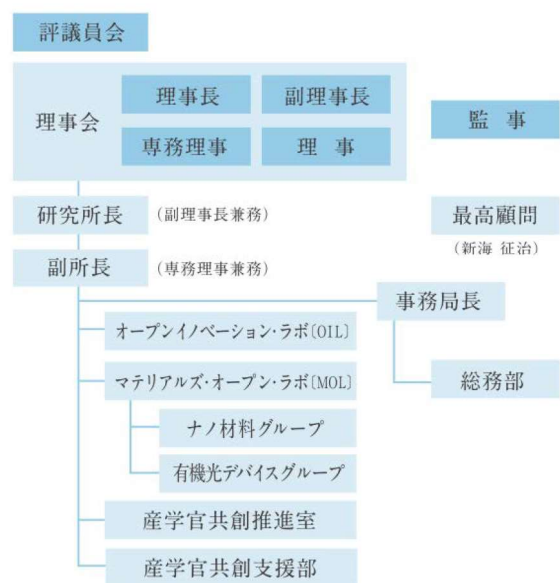
ISITは、我が国はもとより世界的な潮流として情報革命ともいわれる情報ネットワーク化社会へ向けた本格的なシフトがはじまろうとしていた1995年、福岡を拠点に、時代のリーディング産業としての情報関連産業の発展に寄与すべく設立され、システム情報技術分野を通じ、地域産業の振興に先導的役割を果たしてまいりました。

2008年には、これまでの経験をより広く科学技術分野に活用していくため、新たにナノテクノロジーなどの先端科学技術分野を加え、これまで培ってきた産学官連携の経験を活かし、地域における新産業の育成支援にも取り組んでまいりました。

2013年には、これまでISITが取り組んできた活動の高い公益性が認められ、内閣総理大臣より公益認定を受け、4月から公益財団法人へと新たな一歩を踏み出しました。

今後、ISITへの期待・役割は、ますます大きくなるものと考えています。地域における関連産業の発展のため、積極的な事業展開を図り、活力ある地域社会の実現に向け、なお一層の貢献に力を尽くしてまいりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

組織図（2021年4月）



ISITは、アジア太平洋を中心とした国際的な産学官の協調の下で、システム情報技術やナノテクノロジーなどの先端科学技術並びに関連する科学技術分野において、中長期的、戦略的なテーマに関する研究開発、社会実装／実証事業を行い、さらに産学官連携による様々な事業・プロジェクトの構築やコンサルティング、人材育成、交流・協力など、各種支援活動を行うなど、技術移転や技術交流の架け橋となり、広く関連産業や地域経済の発展に寄与していきます。

概要

名称	／公益財団法人 九州先端科学技術研究所 Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies (ISIT) 2008～2012年度 財団法人 九州先端科学技術研究所 1995～2007年度 財団法人 九州システム情報技術研究所
設立	／1995年12月25日 設立 経済産業大臣（旧通商産業大臣）許可 2013年4月1日 公益財団法人に移行 内閣総理大臣認定
基本財産	／3億円（うち福岡市から出損金2.5億円）
賛助会員	／法人会員56社、個人会員17名 （2021年4月現在）
研究機関番号等	／科学研究費助成事業研究機関 研究機関番号87103 e-Rad 研究機関コード 6800498931

沿革

1993年 6月	「福岡SRPにおける研究開発のあり方に関する調査」報告 （九州大学ワーキンググループ）
1995年 3月	福岡SRPにおける中核的研究所設立 検討委員会 設置
1995年 12月	財団法人 九州システム情報技術研究所 設立
2003年 10月	科学研究費補助金研究機関指定 （機関番号取得）
2008年 4月	財団法人 九州先端科学技術研究所に改組 （ナノテク研究室 新設）
2012年 4月	有機光デバイス研究室 新設
2013年 4月	公益財団法人に移行
2017年 4月	オープンイノベーション・ラボ（OIL） 設置（IT系研究室を再編）
2017年 6月	産学官共創推進室 新設
2018年 4月	マテリアルズ・オープン・ラボ（MOL） 設置（NT系研究室を再編）

事業概要

新たな社会ニーズに応える6つの事業

研究開発／社会実装・実証事業

独自の研究や社会実装・実証実験の取り組みを行っています。産み出された研究成果は、プロジェクト型研究や受託研究・共同研究などを通して地場企業や地域社会に提供していきます。

推進体制

オープンイノベーション・ラボ(OIL) Open Innovation Lab

P5参照

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進

- ・オープンイノベーションのハブ
- ・社会実装、社会実証を推進・実行するDoTank
- ・産業界での商品化・産業化への橋渡し



マテリアルズ・オープン・ラボ(MOL) Materials Open Lab

P7参照

有機・無機・金属ナノ材料より構成される光機能素子・デバイスの創製に向けた基盤技術の開発

＜ナノ材料グループ＞

- ・プラズモンナノ材料の開発と産業への応用
- ・光エネルギー変換ナノ材料システムの開発

＜有機光デバイスグループ＞

- ・有機ELの実用化のための評価技術・最適化技術の研究開発
- ・有機光デバイスの励起子制御技術に関する研究開発



プロジェクト型研究／受託・共同研究

地域の企業や大学との連携を図り、それぞれの研究成果を活かした、国等の各種提案公募型研究制度への応募により研究や実証実験等の資金を獲得し、研究開発及び事業を推進しています。

また、研究開発における課題解決及び研究成果の実用化や産業界での商品化・産業化への橋渡しを促進するため、企業、大学、行政等からの研究開発や実証実験・調査業務等を受けたり、企業や大学等と共同研究を行っています。

- 主なプロジェクト型研究
- 高齢者の特性に合わせた独自のロジックを持つ学習型人工知能を搭載した自動鑑別診断システムの開発（経済産業省）
 - イチゴの省エネ栽培・収量予測・低コスト輸送技術の融合による販売力・国際競争力の強化（農林水産省）
 - 次世代高効率有機ELディスプレイ用材料の開発（新エネルギー・産業技術総合開発機構）

コンサルティング事業

企業や自治体などが抱える、システム情報技術、ナノテクノロジー等の分野における技術的な課題等に関する相談に応じ、解決に向けた支援などのコンサルティングを行っています。

また相談内容に応じて、受託・共同研究や産学・産産のマッチング、公募型制度の活用（提案）など、課題解決に向けた具体的な支援を行っています。



分析・解析よろず相談事業『分析NEXT』

P8参照

産学官連携による新産業・新事業創出事業

システム情報技術、ナノテクノロジー、有機光デバイス、カーエレクトロニクス、医療・バイオなどの幅広い分野において、人的ネットワークの形成、関連機関との連携、産学のマッチング支援などを行い、新産業・新事業の創出支援を目指しています。

産学官連携によるイノベーション推進事業

イノベーション・アーキテクト等の活動を通じ、福岡市と協働でオープンイノベーション促進のためのプラットフォームを構築するほか、実証実験や産学連携のマッチングによる産学共同研究開発プロジェクトに取り組むなど新事業の創出に向けた支援やスタートアップ支援等の活動を推進しています。



有機光エレクトロニクス研究開発拠点形成の推進

九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)や有機光エレクトロニクス実用化開発センター(i3-OPERA)等と連携し、九州大学学術研究都市を核とした有機光エレクトロニクス研究開発拠点形成を推進しています。



九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)



有機光エレクトロニクス実用化開発センター(i3-OPERA)

情報収集／提供事業

- 市民向けセミナー等の開催
- 活動レポートの発行
- Web・メールマガジンによる情報提供
- 先進的な技術等に関する情報（書籍、論文資料等）の収集



情報収集／提供事業（市民向けセミナー）

SRP Open Innovation Lab P6参照 や ISITコミュニティスペースで閲覧できます▶

<http://www.isit.or.jp/cspace/>



人材育成事業

交流・協力事業

地域企業の技術者等の研究開発力向上のためセミナーを開催するとともに、企業や海外から技術者の受け入れ等を行っています。また、小中学生等を対象としたものづくり教育の支援等を行っています。

システム情報技術、ナノテクノロジーなど最新の先端科学技術に関する講演会をさまざまな形態で行っています。国内外の研究者による講演会や産学官連携による研究会の開催など、時宜に即した各種イベントを実施し、「人と情報の輪」が広がっています。

- セミナー等の開催
 - 企業技術者・研究者受入れ
 - 若手研究者の育成及びインターンシップによる人材育成 等


- 九州大学高等研究院や京都高度技術研究所との研究交流
 - 北部九州地域の産学官連携機関との交流協力（「Joint-IFF」、「ちいむ百(もも)の糸」等）
 - 九州大学未来化学創造センター、日本分析化学会九州支部、プラズモニクス研究会等との活動交流

オープンイノベーション・ラボの紹介

Open Innovation Lab : 略称 OIL

think together
do together



ディレクター 荒牧 敬次(副所長兼務)

当ラボは、これまで培ったテクノロジーや九州における大学等の学術研究機関のシーズを活かし、社会実装、社会実証を産学官連携で推進します。

また、九州大学および産業技術総合研究所(産総研)等と連携・協力して、九州地域の民間企業が抱える課題に対して解決を図るほか、AI・ビッグデータ・IoT等に関連した研究開発なども共同で実施していきます。



〈テーマ〉

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、
社会実証を産学官連携で推進

I オープンイノベーションの ハブ (Hub)

オープンイノベーションによる課題解決の場として、九州地域の経済産業振興に資する役割を担います。これにより、産業界の課題やニーズに対応することで、九州地域におけるスタートアップの支援や地方創生の実現を支援します。

II 社会実装、 社会実証を推進実行 (DoTank)

DoTankとして、社会実装、社会実証実験を産学官連携で推進実行します。これにより、優れた発明・発見を、実社会での実装や実証に供し、社会において、競争力のある価値の創造につながるイノベーションの創出を支援します。

III 産業界での商品化・ 産業化への橋渡し (Bridge Building)

優れた発明・発見から産業界での商品化・産業化への橋渡しを行います。これにより、豊かな社会・持続可能な社会の実現に貢献します。

〈具体的な取組み〉

実証分野

AI、IoT、ビッグデータ&オープンデータ、ブロックチェーン、サイバーセキュリティ、ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ(VR)／拡張現実感(AR)など、新たなビジネス機会を生むイノベーションに対応します。

AR・VRの研究と応用(「はかる」×「見せる」→「役立てる」)

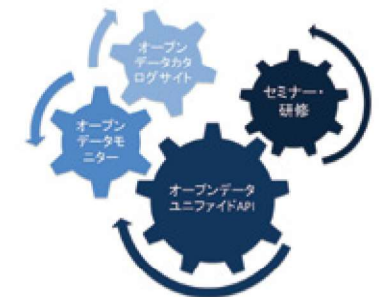
計測技術や可視化技術を利用し、「いつでも・どこでも・誰でも」という観点で、人々に豊かな生活を提供するシステムの実現を目指した研究開発を行っています。特に医療・スポーツ・農業の支援を対象にウェアラブルデバイスを用いた人間計測やセンサを用いた環境モニタリング、ARやVRによる情報提示などに取り組んでいます。



ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州(BODIK)

BODIKはビッグデータおよびオープンデータを活用した事業を展開しています。2017年10月には、「産学官の垣根を超えたデータの利活用を促進し、九州をはじめ日本全域のスマート化に貢献する」ことを目的に「オープンデータセンター」を開設し、以下の4種類のサービスを提供しています。

- I. オープンデータカタログサイト**
オープンデータを公開するカタログサイトで、自治体は無料で利用できます。
- II. オープンデータモニター**
全自治体のオープンデータを集めて再分類したワンストップポータルです。
- III. オープンデータユニファイドAPI**
標準化された複数の自治体のオープンデータを簡単に検索することができます。
- IV. セミナー・研修**
オープンデータの意義を理解する啓発セミナーや、データの公開と活用方法の習得を目的とした実践研修を開催しています



<http://www.bodik.jp/opendatacenter/>

「超スマート社会(Society 5.0)」の推進

「収集」「蓄積」「選択」「分析」「活用」といった一連の情報の流れを構築し、企業活動の高度化、そしてスマートシティの実現に取り組みます。



SRP Open Innovation Lab

SRP Open Innovation Lab(以下SOIL)は、これまでAI・IoTなどの最新技術体験・各技術の相談・エンジニアやビジネスマンの交流などの場として、株式会社福岡ソフトリサーチパークとISITで共同で設置し、運営してきました。今回ウィズコロナ時代の「新しい生活様式」に対応して既存のSOILを改装し、SOILスタジオという名称で、オンラインセミナーが可能なリモート配信スタジオとしてオープンしました。また隣の少し広いスペースを、SOIL イベントスペースという名称で、オンライン動画配信と会場での観覧が同時に併用できるイベントが開催可能な場所として新設しました。

■SOILスタジオ

SOILスタジオは、オンライン配信、動画の制作が可能なスペースとなっています。広さは約50㎡、ネットワークはWiFi、有線どちらも対応可能です。クロマキー*やHDMI*ミキサーを利用した配信動画の合成やHDMIミキサーを利用した動画の収録、動画編集用のPCも用意しています。
※クロマキー：緑色布バック(特定の色の成分から映像の1部を透明にし、別の映像を合成する際に使用)
※HDMI：映像や音声などをデジタル信号として1本のケーブルで伝送できる通信規格



■SOILイベントスペース

SOIL イベントスペースは、広さは約90㎡、ハンズオンで20名程度、椅子のみで40名程度のセミナー等のイベントが開催できるスペースとなっています。(十分な距離を確保するためには、10名程度でのご利用となります)こちらの部屋にもクロマキーやHDMIミキサーを用意しており、オンラインとオフラインのイベントが同時開催できる場所となっています。



場 所：福岡市早良区百道浜2丁目1番22号
福岡SRPセンタービル1F

運営主体：公益財団法人 九州先端科学技術研究所
情報発信(facebook)：
<https://www.facebook.com/SRPOIL/>



問い合わせ
SRP Open Innovation Lab
公益財団法人 九州先端科学技術研究所(ISIT)
TEL.092-852-3495



ディレクター 山田 淳(研究所長兼務)

当ラボは、光科学、材料科学、分子組織化学分野で培ってきた確かな研究力と豊富な経験を駆使して、有機材料、無機材料、プラズモン金属ナノ材料を構成要素とする新奇光機能素子・デバイスの創生、既存素子・デバイスの性能向上に向けた独自の開発研究のみならず、グリーン・ライフ分野における産業界のニーズと大学等研究機関のシーズを繋ぐべく、産学官連携の下で開発研究を推進します。

また、学研都市に集結している大型分析機器を最大限に活用し、当該分野の企業が抱える課題に対応するための相談窓口を設け、課題解決にむけた分析・解析の支援を行います。



〈テーマ〉 有機・無機・金属ナノ材料より構成される 光機能素子・デバイスの創製に向けた基盤技術の開発

I

金属ナノ材料より構成される 光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発

(ナノ材料グループ) 研究グループ長 山田 淳

可視～近赤外域でプラズモン共鳴吸収を発現する金・銀ナノ粒子に表面化学修飾を施し、ナノ粒子の組織化やフィルム化を可能にする条件を確立し、新奇光エネルギー変換素子、光センシング素子、有機材料とプラズモンナノ材料のコラポレーションによる革新的光デバイスの創出を目指します。

II

次世代有機半導体光デバイスの 創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発

(有機光デバイスグループ) 研究グループ長 八尋 正幸

企業や大学等研究機関と連携し、有機ELをはじめ、有機太陽電池、有機トランジスタなどの有機光エレクトロニクスデバイスの研究開発を行うなど、これまでの概念にとられない有機半導体のポテンシャルを最大限に発揮できる革新的な共通基盤技術となる有機光デバイスを実現します。



〈具体的な取り組み〉

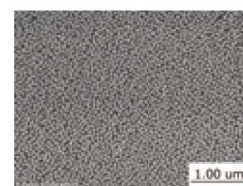
ナノ材料グループ

(1) プラズモンナノ材料の開発と産業への応用

- 可視～近赤外域の光を吸収・局在化するプラズモンナノ材料の開発
- 表面機能化による組織化・フィルム化のための技術開発

(2) 光エネルギー変換ナノ材料システムの開発

- 有機光エレクトロニクス用ナノ材料の開発
- 光デバイスへの導入による高性能化、光センシングデバイスへの応用展開のための共通基盤技術の開発



銀ナノプレートの電子顕微鏡写真



サイズの異なる銀ナノプレート分散液
(大日本塗料(株)提供)

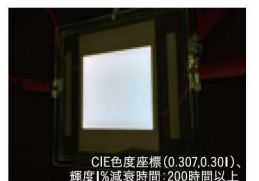
有機光デバイスグループ

(1) 有機ELの実用化のための評価技術・最適化技術の研究開発

- 企業や有機光エレクトロニクス実用化開発センターと連携した面封止技術、フレキシブル基板プロセスの開発と評価技術の確立
- 九州大学発の革新的発光材料(熱活性型遅延蛍光材料:TADF材料)を用いた白色有機ELの開発
- 高効率・高色純度の青色有機ELの実現と標準化
- 時間分解蛍光スペクトル測定、熱刺激電流測定、磁場中発光特性評価法等を駆使した有機ELの薄膜内部の状態計測技術の確立とデバイス設計への展開
- 有機ELへの新規ナノ材料の導入と高性能化



評価中の半透明フレキシブル有機EL



CIE色度座標(0.307,0.301)、輝度1%減衰時間>200時間以上
黄色発光TADF材料と既存の青色材料を用いたタンデム型白色有機ELデバイス

(2) 有機光デバイスの励起子制御技術に関する研究開発

- 有機/無機ハイブリッドデバイスの代表格であるペロブスカイト型太陽電池の結晶性薄膜の作製技術の確立とフレキシブル化
- 可視～近赤外光領域のセンシングデバイスの開発とプラズモン局在効果を活用した高性能化
- 理研連携による、有機物と光・電気の相互作用を応用した新規デバイスの共同開発

よろず相談「分析NEXT」

中堅・中小企業、スタートアップ企業等が抱える製品開発などの課題に対応するための相談窓口を福岡市産学連携交流センター(FiaS)に開設しています。九州大学とも連携した分析機器利用やその解析などを通じて、さらには技術的課題の解決に向けたアプローチの提案を行い、企業の製品開発を支援しています。

経験豊富な専門家	長年企業で研究開発・分析業務等に 従事してきた専門家が対応
多種・多様な分析機器	FiaSや九州大学の多種・多様な 分析機器を用いて課題解決を支援
課題解決に向けた提案	課題解決のための対応方法や 分析・解析手法を提案
きめ細やかな支援	分析と技術的助言・指導により 課題解決に導く

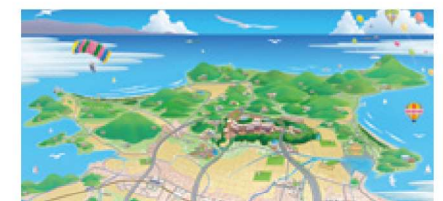
問い合わせ
公益財団法人 九州先端科学技術研究所(ISIT) TEL.092-805-3810



よろず相談「分析NEXT」
<https://next.isit.or.jp/>



研究開発型スタートアップの創出・育成に関わる様々な主体が、組織や業種の垣根を超えて交流・連携できる場づくりを行っています。



ふくおか産学共創コンソーシアム <https://fiac2.isit.or.jp/>

福岡市IoTコンソーシアム

福岡市・NPO法人QUEST・九州先端科学技術研究所(ISIT)を核とし、福岡市域でIoTに興味を持つ企業、団体、個人、大学、ベンチャー等へ、多様な技術・知恵が集まる場をつくり、産学官が参画・連携するIoTネットワークを形成しています。
このネットワークにより、IoT技術力向上、資金調達、製品開発、新規ビジネスの創出が推進されるための支援を行っています。

- I. IoT関連の最新技術情報や事例紹介等の情報提供
- II. IoTベンチャーとVC・金融機関、IoTベンチャーと大手SIerなど、組織間のマッチング支援
- III. 福岡市IoT推進ラボの企画・運営



AIセミナーの様子



<http://www.fitco.jp/>

ふくおか産学共創コンソーシアム

ふくおか産学共創
コンソーシアム

2017年12月に、福岡市と共同で、地域におけるイノベーション実現と地域経済発展を目的とした、企業、大学等研究機関、経済団体等、産業支援機関などによる、ゆるやかな横の交流・連携ネットワーク「ふくおか産学共創コンソーシアム」を設立しました。

中小企業の研究開発力の向上やスタートアップの創出・育成など地方発イノベーション創出を推進するため、地域における研究・開発型の中小・中堅企業やスタートアップ、大学等研究機関、金融機関、各地域の産業支援機関など様々な主体が、組織や業種の垣根を越えて交流・連携できる場(環境)をつくるとともに、その場から、多くの交流・連携活動が自律的に生まれるための支援活動(交流・きっかけづくり/発展/共同研究・開発促進/事業化・製品化)に取り組んでいます。



12/15 設立フォーラム



<https://fiac2.isit.or.jp/>

分析・解析よろず相談事業『分析NEXT』



ISITは、福岡市、九州大学、(公財)九州大学学術研究都市推進機構(OPACK)との連携による産業界へのサポート事業として、製品・材料開発等における分析・解析に関する課題の解決を支援する『分析NEXT』の中核機関(相談窓口)として技術支援・助言等を行っています。



産総研と連携・協力に関する
協定を締結

2018年2月に、九州地域における橋渡し機能を強化することを目的として、国立研究開発法人 産業技術総合研究所情報・人間工学領域と、連携協力協定を締結しました。

- 九州地域における橋渡し機能の強化
- 地域企業が抱える課題を両機関が連携して解決
- 実証実験の協力や設備の相互利用など、密接な連携を行うための枠組みを構築



分析・解析支援ネットワーク
創出に向けた連携協定を締結

2017年12月に、ISIT、九州大学、福岡市および九州大学学術研究都市推進機構の4機関は、保有する分析・解析機器や知識・技術等を相互活用することにより、さらなる民間企業や大学等研究機関の製品・材料開発等における分析・解析に関する課題解決、人材育成、イノベーション創出を推進することを目的として、連携協定を締結しました。この協定により、各機関協力のもと分析・解析よろず相談事業「分析NEXT」を推進しております。



市民向け講演会を開催

2018年度は、IoTやオープンデータ・ビッグデータなどの技術を地域で活用し、子供の安全安心な通学を確保することをテーマに開催しました。地域防犯の専門家による講演、IoT技術を使った児童の安全サポートや見守りを普及中あるいは実験中の企業による事例紹介、またISITからは交通事故オープンデータ分析手法の報告を行い、地域の企業やISITの活動を市民に知ってもらう機会となりました。



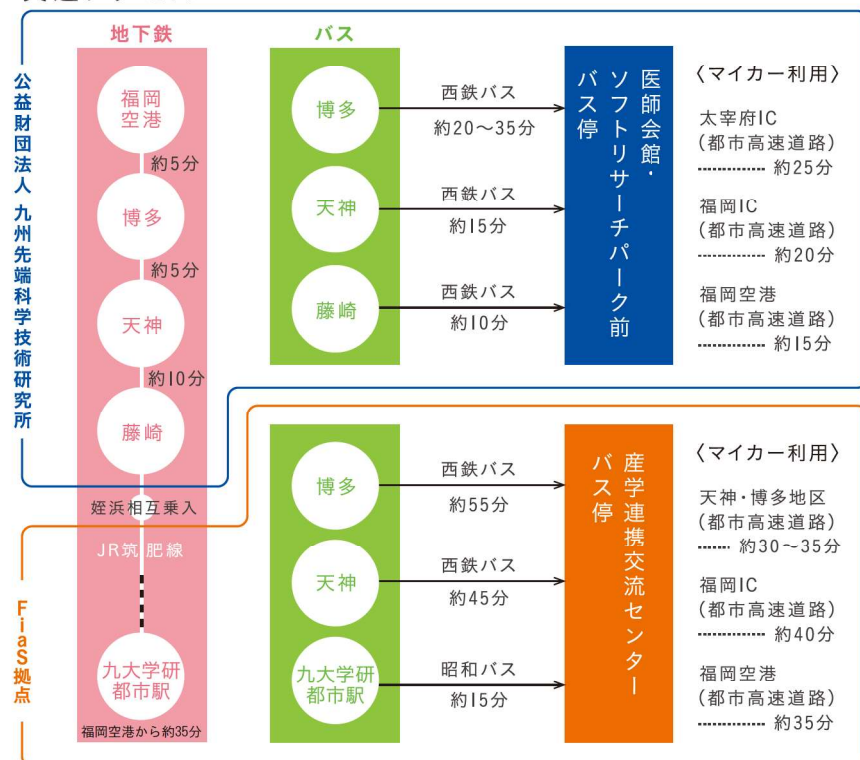
ISITを“未来の研究者”が訪問

2018年8月、中学生・高校生の団体見学を受け入れました。生徒は、普段は接する機会の少ない研究者による話や電子顕微鏡などの機器の説明に興味深く聞き入り、「科学技術がどのように身近な生活と関わりがあるのかを知ることができた」などの感想を寄せていました。このほか、九州大学未来化学創造センターと共同で小中学生向け科学教室を開催するなど、子ども達が科学技術に触れる機会づくりを行っています。





交通アクセス



賛助会員募集

当研究所の設立目的に賛同して頂ける方(団体、企業、個人等)は、是非ご加入下さい。

会員特典

- 1 ISITの技術コンサルティング料金を割引
- 2 コミュニティスペースや会議室で設備・備品が利用可能
- 3 ISITホームページで紹介(リンク等)
- 4 活動報告書・ISIT活動レポートの送付等

詳細はISIT総務部まで

TEL: 092-852-3450

FAX: 092-852-3455

e-mail: isit-soumu@isit.or.jp

WEB: <https://www.isit.or.jp/about/supporter/>



公益財団法人
九州先端科学技術研究所
Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

ISIT

●公益財団法人九州先端科学技術研究所(本部/OIL)
〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号
福岡SRPセンタービル5階
TEL: 092-852-3450(代表) / FAX: 092-852-3455
WEB: <https://www.isit.or.jp/>

●FiaS拠点(MOL/産学官共創推進室)
〒819-0388 福岡市西区九大新町4-1
福岡市産学連携交流センター(FiaS)内
TEL: 092-805-3810(代表) / FAX: 092-805-3814
WEB: <http://sangaku-center.city.fukuoka.lg.jp>

賛助会員入会のご案内

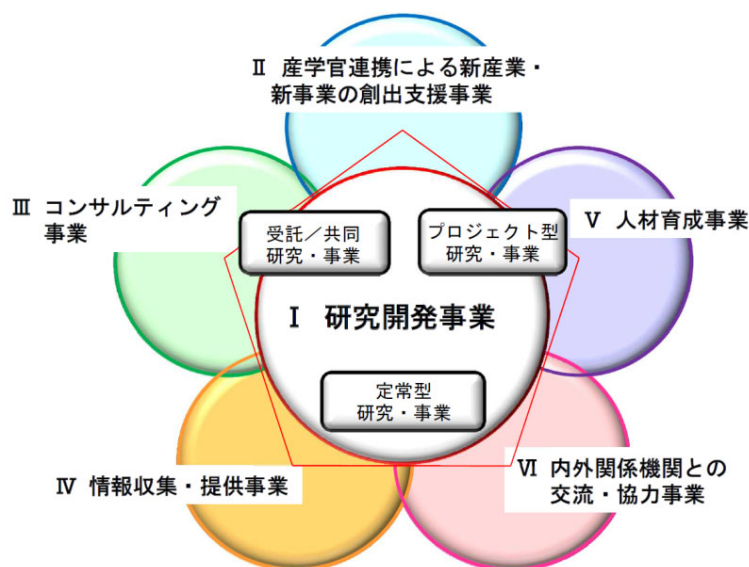
当財団の事業目的に賛同して頂ける方
(企業/団体/個人等)の賛助会員入会を募集中

主な特典

1. ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
2. 分析・解析よろず相談事業(分析NEXT)のコンサルティング料の減免
3. ホームページで会員紹介(リンク等)
4. その他活動報告書や活動レポートの送付



当財団は、システム情報技術、ナノテクノロジーなどの先端科学技術分野において、九州地域における**共創の場を提供し、社会実装や社会実証、産業界のニーズと大学等研究機関等のシーズをつなぐ開発研究**を産学官連携の下で推進するなど、産業の振興と経済社会の発展に資する様々な活動・事業(公益目的事業)を行っています。



産学官連携プロジェクト (R6.4現在)

- 福岡DXコミュニティ (fdx.community)
 - One Kyushu DX (OKDX)
 - ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)
 - SRPオープンイノベーションラボ
 - 分析・解析よろず相談事業(分析NEXT)
 - ふくおか産学共創コンソーシアム
 - エンジニアフレンドリーシティ福岡(EFC)
- など

詳細：<https://www.isit.or.jp/project/>



【入会申込・お問合せ窓口】

当研究所 総務部 Tel : 092-852-3450 Fax : 092-852-3455

E-mail : isit-soumu[at]isit.or.jp ※ [at]=@

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号 福岡SRPセンタービル5階

賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所 宛

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

年 月 日

ふりがな			
団体名 又は氏名	※法人会員の場合は団体名、個人会員の場合は氏名を正式名称でご記入ください。当研究所のWEBに掲載させていただきます。		
代表者氏名	※個人会員の場合は記載不要		
住 所	〒		
電話番号	※法人会員の場合は代表番号をご記入ください。	FAX番号	
入会理由 ※複数選択可	1. 研究開発内容に関心あり 2. 共同研究/共同提案等の実施等 3. コンサルティング(技術相談等)の活用 4. セミナー・交流会等の活用 5. 情報収集等 6. その他()		
申込口数	※番号に○をつけて、申込み口数をご記入ください。 1. 法人会員 □ 2. 個人会員 □ (6万円/口) (1万円/口)		
メールアドレス	※各種セミナーや講習会などのご案内や賛助会員様への連絡等をお送りする宛先になりますので、必ずご記入ください。		
WebページURL	※当研究所のWEBでのリンク設定を希望されない場合は、□にチェックを入れてください _____ □当研究所の賛助会員ページに上記URLをリンクすることに同意しません。		
※団体(法人会員)での申込みの際は以下もご記入ください。			
担当部署名			
担当者名		電話番号	
備 考			